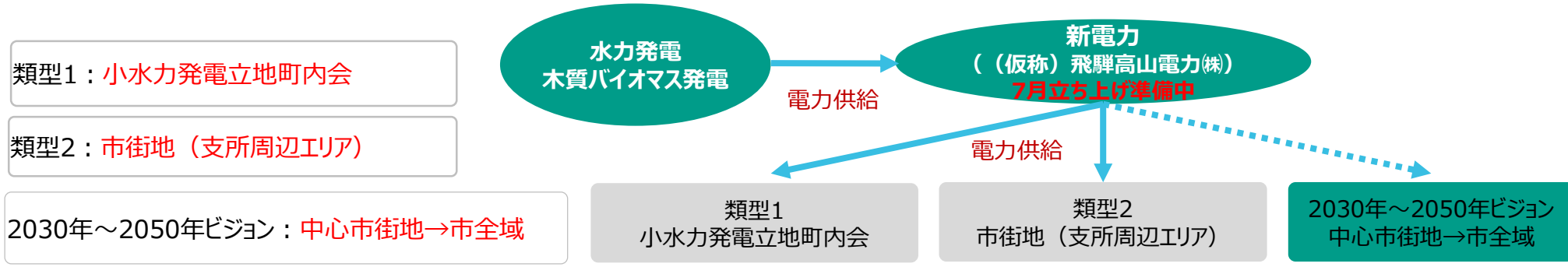


【飛騨高山モデル】市町村合併により日本一の面積を誇る高山市の自然エネルギー活用（仮） ～2050年ゼロカーボンを見据えて～（仮）

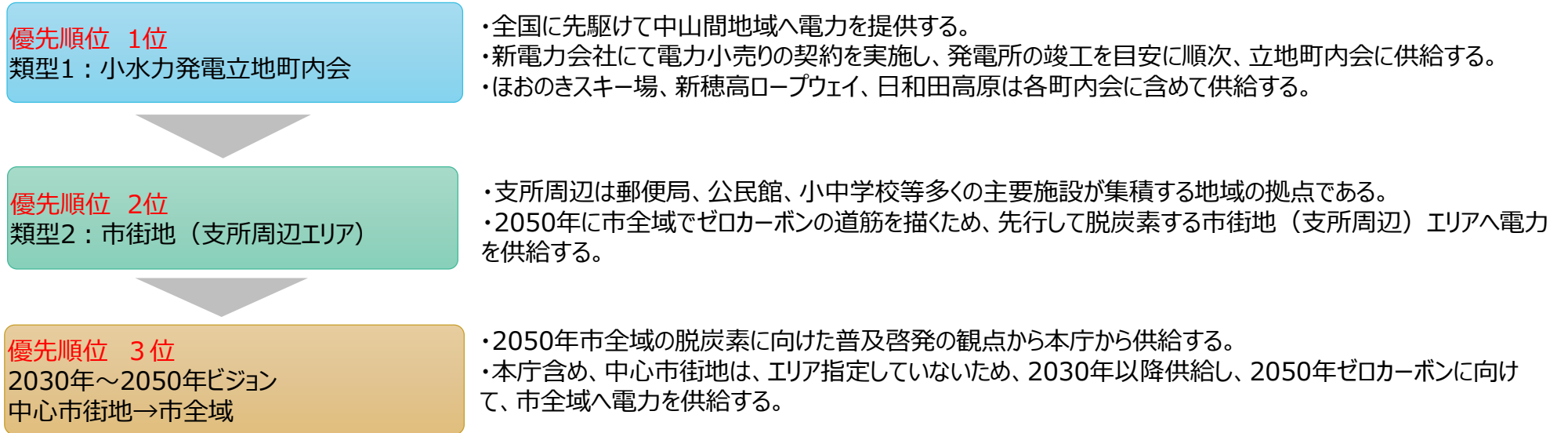
提案者：高山市、阿多粕小水力発電（株）、旗鉾小水力発電（株）、飛騨高山小水力発電（株）、阿多野郷・野麦小水力発電（株）、井上小水力発電（株）、塩屋小水力発電（株）、上青屋小水力発電（株）、久手観光開発（株）、濃飛乗合自動車（株）、奥飛観光開発（株）、名古屋鉄道（株）、飛騨高山電力（株）

エリア設定の考え方

人口減少等の課題が山積しているエリアは支所地域に点在する小水力発電立地エリアに多い。
地域課題に効果的に対処していくためには、発電立地町内会→市街地（支所周辺エリア）という順序で施策を展開する。



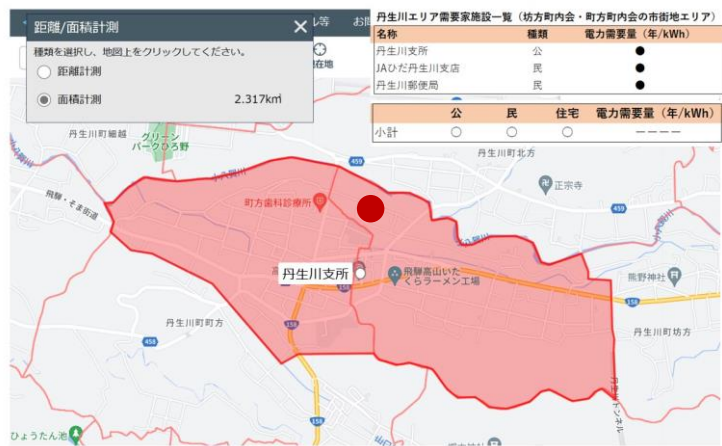
電力供給における優先順位の考え方



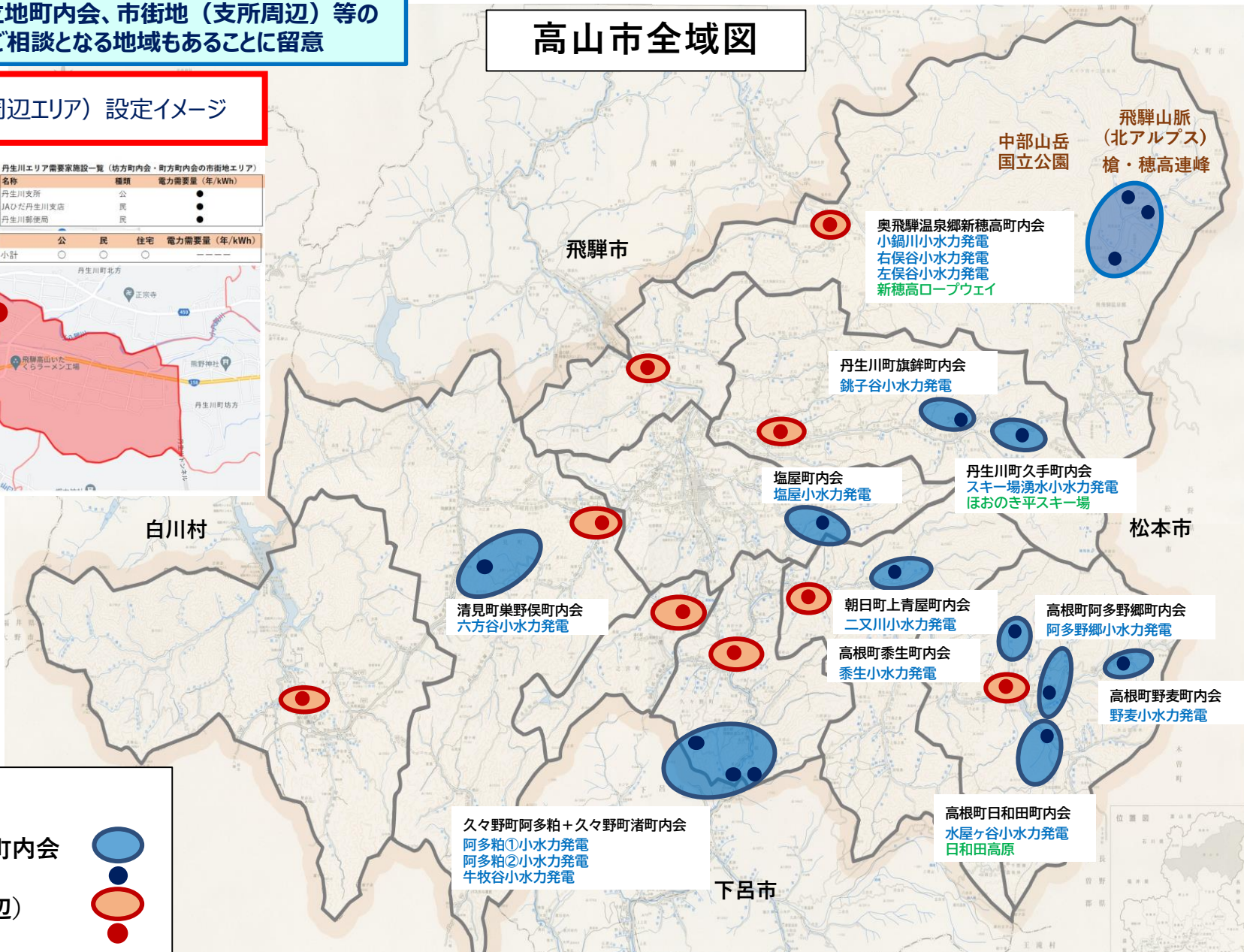
第4回脱炭素先行地域エリア設定（位置図）

小水力発電所候補地や立地町内会、市街地（支所周辺）等の同意については、これからご相談となる地域もあることに留意

市街地（丹生川支所周辺エリア）設定イメージ



高山市全域図



凡例

- 類型1 小水力発電立地町内会
小水力発電所
- 類型2 市街地（支所周辺）
支所

